

中国古典小説の分類の問題点 —文言小説に焦点を当てて—

高西 亜衣菜

中国古典小説の分類は混乱している。雑史、伝記、故事、雑家、小説家の分類項目に分けられる書物は分類が混乱しやすいが、混乱しやすいことは南宋の頃から指摘されている。『四庫全書総目提要（以下『四庫全書』とする）』の小序では、雑史は政治や軍事について、小説は民間の話や些細な事柄について収めているものだとしているが、劉咸炘は、雑史は客観的に記述することに目的があり、小説は主観意旨を伝えることに目的がある批判しているが、小説は巷の噂話を稗官が集めたことに由来しており、記録を目的としていたともいえるため、小説が主観意旨を伝えることに目的があるとは言い切れない。さらに、宋代になると経史から市井にわたる筆記小説の類が盛んに記されるようになり分類の混乱に拍車がかかり、読む人の関心の所在によって分類に対して様々な意見が出てくる。本研究の意義は、このような分類の問題を整理することにある。

本研究では、六朝から明代の小説について宋代以降の主な目録において、文言小説に焦点を当て、分類の現状を調査することで現状を明らかにし、中国古典小説の分類について書かれた論文の説を把握し、分類の問題点を整理することで、この分類における問題解決のためには何が必要なかを明らかにした。研究の方法は、宋代以降の主な目録である『文献通考』、『東京大学東洋文化研究所漢籍目録（以下『東文研』とする）』、『四庫全書』で小説家類に分類されている文言小説の書名、著者名、分類と、他の目録での分類を表にまとめた。分類の問題点の把握は、先行研究の論をまとめ、劉咸炘の「小説裁論」の説をまとめた。宋時代以前の書物に関しては『文献通考』で小説家類に分類されている書物について他の二つの目録での分類と比較した。『東文研』にも『四庫全書』にも書名がないものが『文献通考』には多く見られた。このことから、宋代以前の書物は多く失われている可能性がある。また、宋以後の書物は『四庫全書』で小説家類に分類されている書物について『東文研』ではどのように分類されているかについて調べた。その結果、『東文研』では宋時代の書物は雑史類に入れられることが多く、明時代の書物は雑家類に入れられることが多かった。

以上のことから、この中国古典小説の分類の問題について筆者は解決するには漢籍目録の研究などに携わる人々が分類の成り立ちに対する正しい認識を持つことと、規範となる目録を作ることが必要であると考え。調査結果などから分類も混乱は、目録を作る際に分類について色々な説があることや、時代による分類に対する考え方の変化や、書物自体の変化が要因として考えられるからである。倣っている対象が各々違い、時代によって重んじる場所も変わってしまっていることからそのような目録を作ることは難しいように思われるが、分類項目の成り立ちや入れるべき書物についてもだんだん研究も進み明確になってくると思われる。これから研究が進みより正しい認識のもとに分類が進められた目録が作られるかもしれない。

（指導教員：松本 浩一）